

茎数を確認し中干は適期に！

強い茎に育てて倒伏をふせぎましょう
猛暑になる前に「ばか苗」・「ノビエ」対策をしっかりと！



産米改良協会 採種情報ページ

1 水管理

(1) 活着期～分けつ期

- ア 活着したら、分けつの発生を促進するため浅水管理とし、水温と地温を高め、日気温較差を大きくする。
- イ このため、できるだけかん水時刻は水温の低い早朝に短時間で行うようにする。

(2) 分けつ期

- ア 田面の均平が悪く落水しにくい場合や排水不良田、生わら施用などによる異常還元田では、溝切りを行い排水を促す。
- イ 目標穂数と同数の茎数を確保したら、ただちに中干しまたは深水処理を行い、過剰分けつの発生を抑制し、一茎の充実を図る。(有効茎決定期:6月25日ころ)
なお、排水不良田では、気象条件によって中干しによる分けつ発生抑制が不十分となる場合がある。このような場合は、深水処理による分けつ抑制が確実である。
- ウ 中干しの期間は7～10日位とし、田面に亀裂が1～2cm入り、足跡が付く程度とする。
(過度の中干しは、根を痛め稲体の衰弱につながる)
- エ 中干しの開始が遅れると、無効分けつが増加し、品質の低下にもつながるため、適期の中干しを行う。
- オ 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち、根の伸長を促進させる。

2 病虫害防除・雑草防除

○ 防除が遅れないよう適期に実施する。

(1) 葉いもち病

- 防除体系に応じて、次により行う。 <裏面の防除体系を参照してください。>
- ① 地上防除体系(次の剤を施用した場合)
- ・箱施用(ブーンパディートかブーンレパード)
 - ・側条施用(オリゼメート顆粒水和剤、ツイスターボ顆粒水和剤、コープガードD12)
- ② 無人航空機体系(オリゼメート2回体系)

【防除体系別防除方法】

防除体系	薬 剤	施用量	時 期
① 地上防除	オリゼメート粒剤	2kg/10a	6月15～25日
② 無人航空機	オリゼメート粒剤20	1kg/10a	6月5～10日とその14日頃の2回

(2) ばか苗病

- ア 育苗期に発生がなくても本田でばか苗病が発生することがある。発生が確認された場合は、7月中旬までに完全に除去すること。
- イ 周辺ほ場の発病株を見つけた場合は、JAに報告し指導を受けながら株ごと除去すること。
- ウ 除去した株は、感染源にならないよう埋没処分すること。

(3) 斑点米カメムシ類防除のための除草対策

- ア 農道・畦畔の草刈りは6月上旬からイネが出穂する10～15日前までに数回実施する。
- イ 雑草が繁茂しないよう、除草作業は早めに行う。

(4) 雑草対策

- ① 実生苗
- ・ほ場を注意深く見回り条間やこぼれ粃からの苗を発見したときはすぐに拔取りを実施する。除去作業は、1回目を田植え後2週間頃とし、2回目をオリゼメート粒剤散布前(6月15日前)をメドに実施する。
- ② ノビエ対策
- ・多発するほ場で中・後期除草剤の施用にあたっては、剤により効果の発現に日数を要するものがあり、さらに、落水により効果が著しく低下するので中干前(20～15日前)に余裕をもって散布すること。

3 気象情報

- 気象庁の1か月予報(5/24～6/23)によると
- ・気温は高い見込み。
 - ・降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。

4 病虫害の発生予察情報

秋田県病虫害防除所が発表(5月27日)した6月の主な病害の発生予報は次のとおり。

病 害 虫 名		発生時期	発生量(前年比)
葉いもち(全般発生開始期)		(感染時期) やや早い	感染量 やや少ない(一)
ばか苗病		—	少 ない (前年より少ない)
斑点米カメムシ類 (第1世代)	アカスジカスミカメ	早い(前年並)	やや少ない (前年より少ない)
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや早い(前年よりやや遅い)	平 年 並 (前年より少ない)

5 ほ場掲示板の設置

- ほ場番号等を確認のうえ、筆毎に設置してください。
(掲示板が不足する場合はお知らせください。)

たね屋から ひとこと
○ 昨年は倒伏が多く発生し、不合格や種子生産量に大きく影響しました。
倒伏に強い稲の姿を目指しましょう。
○ ばか苗株を見つけやすい時期です。何度も巡回し抜き取りをしましょう。

水稻採種ほ病害虫防除体系（令和 7 年度版）

防除時期 対象病害	4 月～ 5 月				6 月		7 月		8 月		
	床土準備	播種時	育苗期	移植時	分けつ期	中干	幼穂形成期	出穂期	穂揃期～傾穂期		
いもち病	側条施用の場合 コープガード D12（20～50kg/10a）か、オリゼメート顆粒水和剤（250g/10a） またはツインターボ顆粒水和剤（100g/10a） 箱施用剤の場合 ブーンパディート箱粒剤（床土混和・播種時 覆土前・移植当日のいずれかに50 g /箱） または ブーンレパード箱粒剤（移植3日前～当日 50/箱）				無人航空機防除体系（1回目） 6 月 5 ～ 1 0 日頃 オリゼメート粒剤 2 0 （1 kg/10a）		無人航空機防除体系（2回目） 1 回目 の 1 4 日 後 オリゼメート粒剤 2 0 （1 kg/10a）		無人航空機防除体系 出穂 1 5 ～ 7 日 前 コラトップ 1 キロ粒剤（1 kg/10a）		無人航空機防除体系 穂揃期～傾穂期 ブラシンフロアブル （8倍液800ml/10a）
					6 月 1 5 ～ 2 5 日 オリゼメート粒剤（2kg/10a）		出穂 1 5 ～ 7 日 前 つぎのいずれか コラトップ粒剤 5 （4 kg/10a） コラトップ豆ぶつ（250～375g/10a） コラトップ 1 キロ粒剤 1 2 （1～1.5kg/10a）		穂揃期～傾穂期 ブラシン粉剤（3～4kg/10a） またはブラシンフロアブル（1000倍液 150ℓ/10a）		
ごま葉枯病							出穂 2 0 ～ 1 0 日 前 オリブライト 2 5 0 （250g/10a）				
稲こうじ病・紋枯病							出穂 2 0 ～ 1 0 日 前 Z ボルドー粉剤 D L （3～4kg/10a） またはドイツボルドー A （2000倍液100～ 150ℓ/10a）				
斑点米カメムシ類					農道・畦畔の草刈り：数回（6 月上旬～出穂 1 5 ～ 1 0 日前まで）			草刈り：出穂期 1 0 日後ころ、収穫 2 週間前以降			
								出穂 1 0 日後ころ スタークル剤		多発予想時 （さらに 2 4 日後） キラップ剤等	